

## MÚSICA EM MINAS GERAIS

## 2010年代のミナスの音楽

文●濱瀬元彦 (ジャズ・ベーシスト) texto por MOTOHIKO HAMASE



Alexandre Andrés
 Macaxeira Fields (2012)



② Antonio Loureiro [Antonio Loureiro] (2010)



③ Kristoff Silva [Deriva] (2013)



④ Uakti [Planetário] (2015)



⑤ Irene Bertachini 『Irene Preta, Irene Boa』 (2013)



6 Coletivo A.N.A. [Coletivo A.N.A.] (2014)



7 Liz Valente [Pipa Amarela] (2014)



(8) Glaucia Nasser & Sammy Figueroa [Talisman] (2014)



Mariana Brant
 Mariana Brant Interpreta Geraldo
Vianna e Fernando Brant (2015)



10 Paula Santoro [Mar do Meu Mundo] (2012)

2010年代のミナス音楽は名門ミナス・ ジェライス州立連邦大学(以下、UFMG と表記) の音楽部 (Escola de Música) 在籍者、出身者が多くを占める新世代 の活躍が目覚ましかった。何と言っても Alexandre Andrés (アレシャンドリ・ア ンドレス) の『Macaxeira Fields (2012)』 【①】の音楽性の高さは衝撃的であった。 今後、Alexandre Andrés が最も豊かな音 楽的源泉となっていくと予感させる。この 作品に前後する Rafael Macedo (ハファ エル・マセド) の『Quase Em Silêncio (2009)』、Misturada Orquestra (ミス トゥラーダ・オルケストラ) 『Misturada Orquestra (2011) , Rafael Martini (>> ファエル・マルチニ) 『Motivo (2012)』、 Joana Queiroz (ジョアナ・ケイロス) "Uma Maneira De Dizer (2012), Felipe José(フェリピ・ジョゼー)『Circular Música (2013)』などはいずれもアカデ ミックな高度な技術に裏付けられた優れ た作品であった。Antonio Loureiro (ア ントニオ・ロウレイロ) は『Antonio Loureiro (2010) [ 2 ], "Só (2012) ] という作品により UFMG 関連の新世代グ ループ中、最も大きな成功を収めた。そ して、彼らの先輩格であり立役者でもあっ た Kristoff Silva (クリストフ・シウヴァ) を挙げなければいけない (『Em pé no Porto (2006)』、『Deriva (2013)』【③】 いずれも傑作)。また、Kristoff Silva と一 緒に現代のミナス新世代を築いたといえ る重要な詩人、Makely Ka(マケリー・ カー)(UFMG 出身ではない)には『Cavalo Motor (2014)』という優れた作品がある。

上記、UFMG 関連の新人たちの多くにとっては80年代から活躍する Uakti (ウアクチ)という演奏グループが大きな存在感を持っている。Uakti には UFMGの教授が複数参加していることもあるが、現在も高い音楽性と新世代グループへの影響力は健在と思われ、昨年暮れには『Planetário (2015)』【④】という素晴らしい作品を発表した。この作品ではAlexandre Andrés の父、Artur Andrés (アルトゥール・アンドレス)の作曲作品が大半を占めており、いかに Alexandre が父の作品の深い影響下にあるか、がよくわかるのである。

10 年代にはミナスならではの女性歌手が多く登場した。UFMG 関連グループと縁の深いところでは Déa Trancoso (デーア・トランコーゾ)『Tum Tum Tum (2007)』、Leopoldina (レオポルヂーナ)『Leopoldina (2010)』、Juliana Perdigão (ジュリアーナ・ペルヂガォン)『Álbum Desconhecido (2011)』などいずれも素晴らしいが、とりわけ、Irene Bertachini (イ

レーニ・ベルタシニ) の『Irene Preta, Irene Boa (2013)』【⑤】という作品は 傑出している。また、彼女たちは結集し て『Elas de Minas (2014)』、『Coletivo A.N.A. (2014)』【⑥】という素晴らしい 作品を出している。これらの歌手と異な る系列を挙げると、まず、Liz Valente (リー ス・ヴァレンチ)。これまで聴いたことの ないような柔らかな唱法で自作曲を歌っ て見事である (『Pipa Amarela (2014)』 【⑦】)。Glaucia Nasser (グラウシア・ナ セール)は、伸びやかかつ繊細な歌が素 晴らしく Sammy Figueroa (サミー・フィ ゲロア) と組んだ『Talisman (2014)』(®) は驚くべき作品だ。Mariana Brant(マリ アーナ・ブランチ)にはミルトン・ナシ メントとのコンビで有名な父、Fernando Brant (フェルナンド・ブランチ) の詩 と Geraldo Vianna (ジェラルド・ヴィ アナ) 作曲の作品集『Mariana Brant Interpreta Geraldo Vianna e Fernando Brant (2015)』【⑨】という作品がある。 丹精、緻密で美しい。最後に現代ブラジ ル最高の歌手、モニカ・サウマーゾに拮 抗しうる実力を持つ唯一の歌手といって よい Paula Santoro (パウラ・サントーロ) が現代ミナスには存在することを挙げな くてはならないだろう (『Mar do Meu Mundo (2012) [10]).